

ラテンアメリカ随想

エクアドルに未来を感じた

フレディ・アルミホス

私は 1998 年までエクアドルに住んでいた。その頃のエクアドルの経済、政治、治安などはとても悪い状態にあった。私は 15 才から 17 才までの間、エクアドルの現状を変えたくて国内の左派や коммуニスト政党などを視察した。しかし、右派も左派もどれも正しくないと思い、自分の政治組織を作り始めたが、当時私は 17 才の未成年だったため不可能であった。当時の各政党内の腐敗はひどく、官僚もマフィアのように思えた。残念ながら命の危険まで感じたため、すぐに長年の夢だった日本での勉学を実現することにした。来日してから 14 年が経って、日本の技術のみならず、日本の政治と経済に興味を持って大学で政治学を専攻した。現在までに日本の政治と経済の成功および失敗も目の当たりにし、いつか、日本で学んだことをエクアドルで応用したいと考えている。



1997 年 17 歳の時、エクアドルにて政治活動

1999 年、エクアドルの右派政党が政権を手に

入れた。当時の大統領ジャミル・マワ氏は経済政策としてインフレを止めるために通貨を米ドルに変え、2000 年以降エクアドルは米ドルを使っている。これによってエクアドルの経済は安定したが、当時は一夜にしてすべての財産を無くした者も沢山いた。日本に居た私は愛国心からショックを受けた。しかし、エクアドル人はいつもどんな状況でも乗り越えてきているので、きっと今回も乗り越えるだろうと強く思っていた。2000 年以降、多くのエクアドル国民は米国や欧州に出稼ぎに行ったが、特にスペインやイタリアが主な行先であった。エクアドルで医師や技術者であった者も、海外ではウェイターやメイドの仕事しかできなかった者も多くいたという。

2005 年、7 年ぶりにエクアドルに一時帰国した時、国はあまり変わっていないと感じた。唯一の変化は、国民が米国ドルの使用に慣れていたことであり、政治に対する批判は 7 年前と変わらなかった。夢があってもエクアドルに居る限り、実現は不可能だと思っている自分の仲間たちとも再会した。

しかし、2007 年頃からエクアドルは大きく変化し始めた。今までエクアドルの政治家にはいなかったタイプの人物が現れた。それが現在の大統領ラファエル・コレア氏である。彼が持つビジョンは多くのエクアドル国民に希望を与えた。もちろん、今まで権力・経済・政治を握ってきた人たちにとって彼は敵であった。しかし、国民は 10 年以上変わらない政治家たちを信用

できなかったため、コレア大統領を支持した。彼は米国にはしばしば批判されるが、彼の多くの政策は間違っていないと国民の多くは信じている。彼も若い頃から優秀で奨学金を得て海外で経済を学んだ。海外で学んだことを現在エクアドルで応用していると思う。

コレア大統領はたった 5 年間で、大きくエクアドルを変え、国会議員の定員数を削減し、さまざまな新しい制度を作った。エクアドル国民の最低賃金を月額 100 ドルから 300 ドルに引き上げ、新しい教育システムを導入したため、教育も劇的に向上した。現在、国立の小学校・中学校・高等学校・大学は少しずつ無料化されてきている。国民健康保険も先進国並みに変わってきている。政府は銀行が国民に損害を与えないように法律を整備し、金融政策を推進している。中小企業への全面的な支援を行い、世界中の多くの国で大使館に加え、通商を促進するため新たに領事館を開設している。



エクアドル大統領ラファエル・コレア氏と執筆者

2005 年から毎年最低 1 回はエクアドルを訪問している。2010 年から国のインフラなどの表面的なことだけでなく、エクアドル国民の意識も高まってきていると気付いた。10 年前に出稼ぎのため国を去った人々がエクアドルに少しずつ戻ってきている。現在、多くの若者が奨学金

を得て世界中の有名な大学で勉強し、卒業したらエクアドルで仕事を得ることが国から保障されている。本年 8 月だけで 2,000 人以上の学生が奨学金を得て海外に出た。エクアドル国内の産業も海外の企業の技術協力を得て、造船業や石油加工、ナノ技術の分野など新たな挑戦をしている。南米は、エクアドルのように少しずつ米国の影響下から離れつつあり、それぞれの国が中東、東南アジア、アフリカなどの新しい地域でビジネスや貿易の可能性を見つけている。さらに南米諸国連合（UNASUR）が数年前に結成され、南米の銀行が誕生し、軍事協力もできるようになった。これは、ラテンアメリカにおける大きな変化であり、特に南米ではその変化が劇的であると思う。ラテンアメリカの将来性を大いに感じ、現在は日本とエクアドルやラテンアメリカの国々とのビジネス関係がこれからも続くように毎日の業務で貢献したいと思う。

14 年前のエクアドルが今のような状況であってほしかったと思う。もしそうであれば、どれだけ自分の国に貢献できただろうかと最近思うようになった。同時に、現在のエクアドル人の若者が自分の国を誇り高く思うからこそ海外に出て勉強し、新しいアイデアをエクアドルに導入していることを嬉しく思う。10 年後、20 年後のエクアドルが今から楽しみである。その時までには、日本および世界中で得た知識や人脈などを使い、エクアドルで政治家を目指したい。その時は、エクアドルだけではなく、世界に現在よりも貢献できると思う。

（Fredy Almijos エクアドル人 32 歳。
MIYARISAN PHARMACEUTICAL EUROPE
（スペイン）General Director、ミヤリサン製
薬(株)事業戦略部係長）

（編集部注：本稿は執筆者の見方をそのまま載せたものです。）